



こうらの国から '17秋



ジッダ日本人学校 倉澤 航

サウジアラビアは、イスラム教の聖地メッカとメディナを有するため、周辺のイスラム教諸国よりも戒律が厳しい国です。1日5回のサラ（お祈り）の時間には、街中がアザーン（お祈りを告げる放送）に包まれ、全ての店は一時閉店します。また、アルコール・豚肉の禁止はもちろんのこと、女性は非ムスリムでもアバヤという黒い衣装を身に着なければなりません。ジッダはアラビア半島の西側にあり、紅海に面しているためメッカとメディナの玄関口として栄えてきました。年間平均気温30度以上、降雨は7日程度と、砂漠地帯の厳しい気候条件下にあります。

ジッダ日本人学校は全校児童生徒9名（小学部9名、中学部0名）・派遣職員6名という、アットホームな雰囲気の中で教育活動を行っています。多様な民族が生活を共にし、英語が通じることから、小学1年生から週4時間英語活動を行い、ファストフードでの注文、他国のインター校との交流など実践の場を多く設けています。また週1回現地採用講師によるアラビア語の授業も行っています。さらに「サウジタイム」というサウジについて理解を深める学習を行っています。自分たちで作ったサウジ料理をレシピ検索サ

イトに投稿、数十億円もする超豪邸への訪問、プロサッカーチームの選手たちとの交流など、子どもたちは五感をフル稼働させて主体的に学習しています。学校行事も様々で、社会科見学では、日本企業が関わる海水淡水化工場や石油プラントを見学します。海の遠足では、紅海でのシュノーケリング体験で色鮮やかなサンゴや魚たちを楽しみます。



紅海で海の遠足

色々と制限される生活の中で、特に大人たちは思考や発言がネガティブになることがあります。しかし、子どもたちのどんな環境でも純粋に学びたいという眼差しを見ると、まずは私たちが前向きにならなくてはと気づかされます。どれだけ子どもたちの学ぶ姿勢に助けられたことでしょうか。

9月にサッカーW杯アジア最終予選がジッダで行われ、特別にサウジ入国ビザを得た100人近い日本人が訪れました。熱狂的なサポーターもいれば、サウジに入国するチャンスは今しかない、サッカーにあまり興味がない方もいました。いわば鎖国状態のサウジに興味関心を寄せる人もいることがわかりました。来年6月には世界で唯一禁止されていた女性の車の運転が解禁され、サウジにとって大きな転換期となりそうです。

派遣期間も残りわずかとなりました。サウジで得た特異な経験をお土産に、長野県の子どもたちとの新たな生活を待ち遠しく思っています。



世界遺産 オールドジッダ歴史地区



海水淡水化工場見学



校舎をバックに。日本人会と共催の運動会